

Sep. 9 (Thur.) 9:35-10:00 PUB 302

Field/分野 : Writing

大学の英語授業におけるライティング指導ツール Criterion®の活用

Using Criterion® in University Writing Classes

鈴木 利彦（早稲田大学）

1. はじめに

大学における英語ライティング指導は時間との戦いである。学生が書いた英文の添削はライティング指導に欠かせないからである。しかし、人数が多ければ多いほど、さらに提出の頻度が多ければ多いほど教員の負担も増大する。

60 年以上のテスト開発の歴史を持つ米国の非営利教育機関 ETS®(Educational Testing Service)が開発したライティング指導ツール、Criterion®（クライテリオン）はそんなライティング指導担当教員にとって指導効率と指導効果のアップを同時に実現するための強力なツールである。

本発表では Criterion の機能概要と早稲田大学商学部における発表者のライティング指導法、その中での Criterion 活用法とその効果、そして学生アンケートの結果を紹介する。

2. Criterion®概要

Criterion®は ETS が開発し、2002 年に米国で発表、翌年から販売が開始された。インターネットブラウザ上で動作し、画面に表示される課題に対してエッセイを提出すると 20 秒程度でプログラムによるスコアと文法などに関する分析結果を表示する。

スコアは 1-6（または 1-4）で自動採点され、Criterion が発見した文法的間違い等も同時に提供される。指摘箇所を一画面で見ながら書き直すことができる Revise 機能もあり、自分のエッセイへの関心を失わないうちに見直し、書き直しができるのは即時採点・分析の大きなメリットと言える。

TOEFL テストや GRE テストの過去問題を含む 400 題以上をはじめから使用することができ、更にオリジナルの問題を無制限に追加することができる。他にも米国における Grade レベル（5th～12th）や College レベルなどもあり、幅広いレベルで使用することができる。

学生が提出したエッセイとその採点分析結果は学校専用のネット上アカウントに蓄積されアーカイブとなり、必要なときに CSV 形式でエクスポートすることもできる。

国内では ETS のパートナーとして TOEFL®テスト ITP 等も取り扱う国際教育交換協議会（CIEE）日本代表部が販売する。<http://www.cieej.or.jp/toefl/criterion/>

3. 授業概要

以下が Criterion を使用した授業の概要である。ともに平成 21 年度秋学期。

英語Ⅱライティング C (2 年次必修)
文法的かつ論理的な英語文書作成能力の養成を目標とする。短文のみならず、150-250 語程度のまとまった文章の作成を目指す。日本語と英語の違い、文法、語法、パラグラフの構成に着目しつつ、英語での文章作成能力を養う。受講生には授業内外で様々なライティングの課題が課され、添削などのフィードバックが与えられる。
英語Ⅱライティング B (2 年次必修)
「英語Ⅱライティング A」で培った能力をさらに伸ばし、250-400 語程度あるいはそれ以上のまとまった英文を書けるようにする。パラグラフの展開法などを学び、小論文の作成を目指す。受講生には授業内外で様々なライティングの課題が課され、添削などのフィードバックが与えられる。

早稲田大学 WEB サイト (<http://www.waseda.jp>) より

4. Criterion を活用した指導の効果

Criterion®には、個人の成績を記録する機能と共に、クラスごとの成績を管理する機能 (Holistic Score Summary) がある。それによって、全体としてどの程度指導の効果があつたか、クラスとして点数が上がつたか、などを指導者が瞬時に把握することができる。今回の発表においてこの点に関しても検証を行う。

5. アンケート

「英語Ⅱライティング B」を聴講する学生にアンケートを配布し、51 名から回答を得た。以下はアンケート項目の一部。

・ Criterion は使いやすいですか
・ Criterion で出題されるトピックは取り組みやすいですか
・ Criterion のスコアは正確だと思いますか
・ Criterion のフィードバックは信頼できると思いますか
・ Criterion を使用した授業でライティングの実力がついたと思いますか

アンケート実施日：2010 年 1 月 19 日